

文化・芸術



「線の形象2024—10」

2024年、岩絵の具、パステルほか、紙
32・0cm×41・0cm
(作者寄贈)

菊地武彦 (1960年)

大川美術館2024年新収蔵作品から

《名画の扉》

幾重にも重なる線が
絡まり、ゆらぎながら
伸びています。横長の
画面ながらその枠を感
じさせず、縦横に深く
自由に広がっていくよ
うです。

本作は、2024年
度の企画展「The日
本・画」に際して大川
美術館の庭に臨む吹き
抜けの窓から眺めた景
色をもとにこの場で屏
風にパステルで描き、
アトリエで仕上げられ
ました。パステルの線
は、画家の手によって

こすられています。
菊地武彦さんはパネ
ル仕立ての大作を手掛
けますが、窓の景色と
展示空間の関連する本
作では、空間を仕切る
実用とイメージの二面
性をもつ屏風を用いて
制作されました。窓か
らの景色は画家の手に
より抽象化された線で
捉えられ、作品の内包
する時間と季節とともに
に移り変わる景色とが
混沌(こんとん)とし、
一体となる空間を生み
出しています。(大谷)